

令和7年度 大田区立赤松小学校 学校運営協議会

第2回 議事録

日時 令和7年7月17日（木）15時10分から16時25分まで（地域集会室）

出席者 委員 齋藤所長・林・土屋・原澤・久保・溝口・川名・伊藤・酒井(代理) 9名
学校 教員全員18名

- 1 校長挨拶
- 2 学校運営協議会メンバー自己紹介
- 3 本校の研究について〔青木研究主任〕
- 4 熟議
- 5 グループごとに発表

Dグループ: 145周年を昨年実施し、地域に見守られることで、こども達一人一人のやる気が上がっていきと感じる。一緒に楽しく遊び、活動をすることで今後もこの地域は発展をすると思う。

Cグループ: 地域との連携によって、こども達の作品を特別出張所や町内掲示板や、校内の掲示などで活用できないかという提案があった。

Bグループ: 地域や学校、社会のつながりをどう考えるか。教員のウェルビーイングを高めるにはどうしたらよいかという視点で熟議をした。授業外でも、担任も大人も褒めていくことが必要である。安全なこの地域の環境を今後も見守っていくことが大切という意見もあった。

Aグループ: こどもへの声かけをしていくことが大切。成功体験を積むことも大切である。例えば、サッカーなどで、本人の気づきのない成功体験など、伝えていくことが大切になる。日常の生活を送れていること、そのものが幸せです。

先生も、こどもも保護者も、皆最善を尽くしていると思う。今できていることを認めることが第一。過度の期待をこどもにかけるより、今できていることヲ認める。例えば、絵をかいたら、「こんなところがよい」などと具体的に伝える。昨日の社会科見学でじぶんの子どもが描いたターレーなどの絵をかいて説明してくれた。こういったことの積み重ねがウェルビーイングになる。